

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-142620

(P2010-142620A)

(43) 公開日 平成22年7月1日(2010.7.1)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
DO6F 57/02 (2006.01)	DO6F 57/02	B
DO6F 57/08 (2006.01)	DO6F 57/08	B
DO6F 57/12 (2006.01)	DO6F 57/12	B
A63B 23/00 (2006.01)	DO6F 57/12	E
A63B 23/12 (2006.01)	A63B 23/00	J

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 7 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2008-336089 (P2008-336089)
 (22) 出願日 平成20年12月17日 (2008.12.17)

(71) 出願人 596098807
 株式会社福島発條製作所
 東京都葛飾区奥戸8-25-2
 (72) 発明者 喜田 真功
 東京都中央区新川1-17-24 ロフテ
 ー中央ビル8F ダイソー株式会社内
 (72) 発明者 佐藤 章一郎
 東京都葛飾区奥戸8-25-2 株式会社
 福島発條製作所内

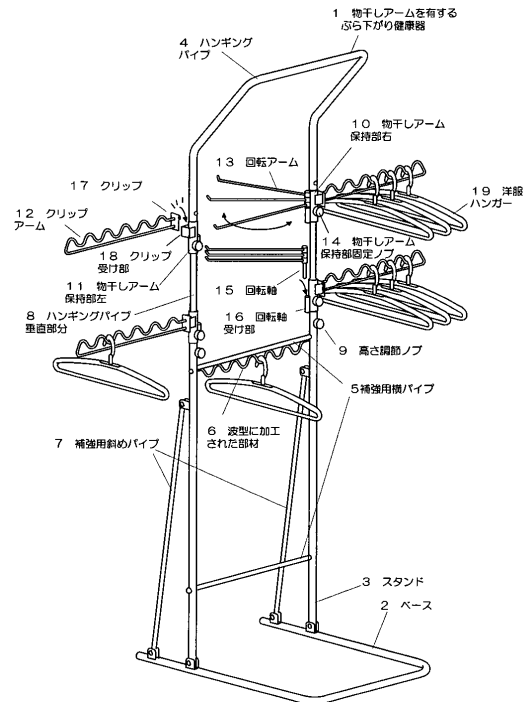
(54) 【発明の名称】 物干しアームを有するぶら下がり健康器

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 不使用時のぶら下がり健康器を一時的に洗濯物の室内物干しとして活用させる。

【解決手段】 ぶら下がり健康器1の左右のハンギングパイプの垂直部分8に、2種類の物干しアーム12, 13を着脱自在に設ける。つまり物干しアーム12は物干しアーム保持部左11に設けたクリップ受け部18に概J字型クリップ17を接続および着脱自在に構成し、棒状の軸が回転できる回転アーム13は物干しアーム保持部右10に回転軸15と回転軸受け部16とで接続および着脱自在に構成する。併せてスタンドの上部の補強用横パイプ5には洋服ハンガー19を掛けられるように波型に加工された部材6を設置する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

床に接するベースと、このベースから立ち上がる 2 本のパイプ及び少なくとも 2 本の補強用横パイプなどからなるスタンドで支持される概 U 字型のハンギングパイプからなるぶら下がり健康器であって、左右のハンギングパイプの垂直部分に、随意の場所及び方向に固定できる構造を持つパイプ状でかつその外周部に上から見たとき背中合わせの位置に 2 種類の物干しアーム、つまり片方は接続方法が概 J 字型クリップを持つもの、もう片方は棒状の軸が回転できるものを接続及び着脱しうる物干しアーム保持部を持つが、それら 2 種類を接続するために片側にコの字型、反対側にパイプの受け部を有して、併せてスタンドを補強する上部の横パイプには洋服ハンガーを掛けられるように波型に加工された部材を設置されてなる物干しアームを有するぶら下がり健康器。

10

【請求項 2】

物干しアーム本体が一本のワイヤで概 U の字型に曲げられていると同時に片方が波型に曲げ加工されている概 J 字型クリップを持つ物干しアームで、波型部分が洋服ハンガーを個別に係止できるとともに、直線部分が大きな洗濯物を掛けることもできるようにしてなる請求項 1 記載の物干しアームを有するぶら下がり健康器。

【請求項 3】

物干しアームが上下複数段に分かれていて、それぞれが独立して回転できるようにしてなる請求項 1 記載の物干しアームを有するぶら下がり健康器。

【発明の詳細な説明】

20

【技術分野】**【0001】**

本発明は懸垂健康器、家庭で使用するいわゆるパイプ製のぶら下がり健康器に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

いわゆるぶら下がり健康器は、鉄棒がある公園やスポーツ施設に行かなくても家庭で手軽に懸垂運動が出来るというメリットが受け入れられて、家庭用健康機器の代名詞ともなっている。素材は強度や価格、加工の容易さから鉄製パイプ製のものがほとんどで、通販の配送を考慮してほとんどが組み立て式である。本発明の趣旨に沿ってパイプ製で述べれば、パイプ製の基本的な構造は、パイプを U 字型もしくは H 字型に加工されたベースと、垂直に立つ二本のパイプなどから構成されるスタンド、スタンドに差込み取り付けぶら下がり用のハンギングパイプからなるといえる。ベースとスタンドの接続にはパイプ同士の差込式に加えて、コの字の金具をベースやパイプスタンドに溶接して補強パイプをボルトで縫う方式、あるいはこれらの併用もある。ほとんどが高さを調節できるタイプで、ネジで締め付けるか、穴に L 字型の棒を入れて固定できるようになっている。このように基本構造は技術的には極めて簡単なものといえよう。基本型以外に、スタンドの補強を兼ねて L 字型の並行パイプを設置するものや、スタンドに腹筋ベンチを設置したものや足踏み運動器を設置したものもあった。ぶら下がり健康器はかなり場所をとることから、折り畳み式のものも出始めている。更にいえば、実用新案登録第 3 1 2 5 3 5 6 号にあるような洋服ハンガーや棚を付けるという収納性を特長とするものもあった。

30

40

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

背景技術でも述べたとおり、主としてパイプ製のぶら下がり健康器は軽便なので広く利用されている。しかし、一日中使うわけではなく、又、スペースをかなり占有するので使わないときの活用方法としてハンギングパイプや補助の横パイプを利用して洗濯物の一時的な室内物干しとして利用されているケースが圧倒的に多かった。しかし、この潜在的な要求を機能的に十分に満たすものはほとんどなかった。但し、実用新案登録第 3 1 2 5 3 5 6 号があるがこれは洋服及び小物などの収納を目的にしているために、短い帽子掛け程度

50

はあるにしても室内物干しとしての機能はあまり有してはいなかった。

【課題を解決するための手段】

【0004】

本発明は、ぶら下がり健康器のこのような使用実態にあわせて室内用物干しとしても十分な機能を持つ製品を得る為になされたものである。つまり、ぶら下がりもやりたいけどスペースも無駄にしたいくないし、できれば室内で洗濯物を多く干せるようにしたいという消費者の要望を実現するものである。その手段として、本発明はぶら下がり健康器を軽便な室内物干しとして発展させることとした。ベースと垂直に起立するスタンドと、このスタンドに差し込まれて高さ調整できるようなハンギングパイプを有する一般的なパイプ製ぶら下がり健康器で説明すると、ハンギングパイプの左右垂直部分のパイプに、パイプを加工した物干しアーム保持パイプを設けるが、これには2種類のアーム保持部が溶接されており、かつ物干しアーム保持パイプは高さ調節用ノブでハンギングパイプに随意の場所及び方向に固定できるようにする。この物干しアーム保持パイプの外周部には背中合わせに設けられる2種類の物干しアームの受け部が溶接されていて、これらの一つの受け部は回転アームの回転軸部を差し込んで回転できるように細いパイプを用いる。又もう一つの受け部は、上から見てコの字であり、波型アームのクリップ部が挿しこめるようにする。このようにしてどちらの物干しアームも随時着脱できるようにする。2種類の物干しアームの本体は直径5～6mmの鉄もしくはステンレス棒を曲げ加工などして得るが、波型アームに関して言えば、洋服ハンガーを規則正しく掛けられるよう6～7山を有するようにする。回転アームに関して言えば、多段式の回転構造になっていて、タオルや布巾などを効率よく掛けられるようにする。このために各段の回転ハンガーアームは短いパイプの外側に溶接される構造になっていて、軸がそれぞれのパイプに貫通して回転できるようになる。最上段のパイプと軸は抜けないようにするとともに最下段のパイプも下に抜けないようにしておく。クリップハンガーのクリップ部は鉄又はステンレス板を用い概J字型に曲げて成形され、物干しアーム本体と溶接する。又、スタンドに設けられる上部の横パイプには、横パイプ下面にクリップハンガーと同様に丸棒を波型に加工されたものを溶接してここにも洋服ハンガー等が掛けられるようにする。これら物干しアーム保持パイプは左右に各2個を上下に設けると多くの洗濯物を掛けることができる。物干しアームは設置場所により向きが制限されるが、物干しアーム保持パイプの向きを換えて対応するか、着脱できるので一部外しても良い。

10

20

30

【発明の効果】

【0005】

上述したような手段による本発明の物干しアームを有するぶら下がり健康器は、雨天時、あるいはベランダで干しきれない場合、又は下着類など他人の目に触れるのを避けたい場合にも補助室内物干しとして大きな効果を発揮する。しかも、物干しアームは回転のみならず着脱ができるので使用状況に応じた柔軟性を有する。

【発明を実施するための最良の形態】

【実施例】

【0006】

本発明を図1から図5に基づいて説明すると、1は物干しアームを有するぶら下がり健康器である。基本部分つまり2のベース、3のスタンド、4のハンギングパイプ、5の補強用横パイプ、7の補強用斜めパイプ、8のハンギングパイプの垂直部分は強度のある鉄製のパイプを用いて図1にあるように曲げ加工などの後で溶接もしくはボルトなどで所要の形状を得る。8のハンギングパイプの垂直部分は高さ調節で摺動させるのでクロムメッキを施し、他の部分は焼付け塗装を施す。なお、8のハンギングパイプの垂直部分には9の高さ調節ノブの締め付けボルトが滑らないように間歇的に凹部を設けても効果的である。9は高さ調節ノブであるが強度が確保できれば一般的な仕様のもので構わない。10、及び11はそれぞれ物干しアーム保持部右と物干しアーム保持部左である。これらは類似しているがその違いは9の高さ調節ノブの取り付け位置が180度異なるのみである。こ

40

50

れらは 8 のハンギングパイプの垂直部分より直径で 1 mm 程度の大きなパイプを用いるが、肉厚は 9 の高さ調節ノブのネジ部をタッピングすることを考慮して 2 mm 程度のものを用いる。長さは 80 ~ 100 mm 程度である。このパイプに 16 の回転軸受け部と 18 のクリップ受け部を背中合わせに溶接するが、16 の回転軸受け部は内径 6 mm、肉厚 1 mm 程度のパイプを 50 mm 程度にカットして溶接される。他方、18 のクリップ受け部は厚さ 2 mm の鉄板を幅 32 mm にカットしたものをコの字型に曲げるが、そのコの字型の寸法は内寸で幅が 22 mm、物干しアーム保持部との最小間隙が 2 mm 程度になるように調整して溶接する。これは後で述べる 17 のクリップが入るようにするためである。又これら受け部の位置関係は、16 の回転軸受け部の下面がそれぞれパイプの下面と同レベルとするのに対して 18 のクリップ受け部はパイプの上面より少し下げて溶接される。物干しアームには 12 のクリップアームと 13 の回転アームがあるが、それぞれのアーム本体は直径 5 mm 程度の鉄製ワイヤを用いる。12 のクリップアームは 18 の受け部に差し込まれると固定されるが、13 の回転アームは 16 の回転軸受け部に差し込むと自由に回転できる違いがある。12 のクリップアームを詳しく述べれば、片面が波型に曲げ加工された概 U 字型であって、17 のクリップと溶接されている。17 のクリップは横から見れば逆 J 字型となるよう、又、アーム本体の波型部分が上になるようにしてそれぞれは溶接される。17 のクリップの寸法は前に述べた 18 のクリップ受け部の内寸に合わせて調整する。アーム本体の直線部分と波型部分の間隙は 10 mm 程度確保する。あるいはそれぞれを直接スポット溶接で点付けしても構わない。13 の回転アームは、15 の回転軸とカラーを有する複数の独立した 24 の直線アームからなるが、15 の回転アームは及び 24 の直線アームの本体は直径 5 mm 程度の鉄製ワイヤを用いる。

独立した 24 の直線アームは内径が 5 mm 強で長さが 20 mm 程度の短パイプの側面に溶接されてなる。先端はやや上方に曲げる。15 の回転軸はこれらの独立した 24 の直線アームの 23 のカラーに通して、上下とも抜けないように加工される。いずれの物干しアームもクロムメッキもしくは焼付塗装を施される。14 の物干しアーム保持部固定ノブは 9 の高さ調節用ノブと同等もしくはこれより小型のもので構わない。8 のハンギングパイプの垂直部分には組み立て時に 10 の物干しアーム保持部右及び 11 の物干しアーム保持部左を必要分だけ設置すれば、従来のもののように 4 のハンギングパイプを外して着脱しないで済む。

【産業上の利用可能性】

【0007】

本発明は以上のように消費者の大きな潜在的な要求に応えるべくシンプルかつ合理的な構造で低コストを実現できるので、ぶら下がり健康器という成熟した商品に新たな魅力を与えることができ、主たる販売ルートの通販業界を活性化できるという産業上の大きなメリットがある。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図 1】 物干しアームを有するぶら下がり健康器の斜視図である。

【図 2】 物干しアーム及び物干しアーム保持部を示す斜視図である

【図 3】 クリップアームの斜視図である。

【図 4】 回転アームの構造を示す斜視図である。

【図 5】 ぶら下がり運動をする場合の状態を示す斜視図である

【符号の説明】

【0009】

- 1 物干しアームを有するぶら下がり健康器。
- 2 ベース
- 3 スタンド
- 4 ハンギングパイプ
- 5 補強用横パイプ
- 6 波型に加工された部材

10

20

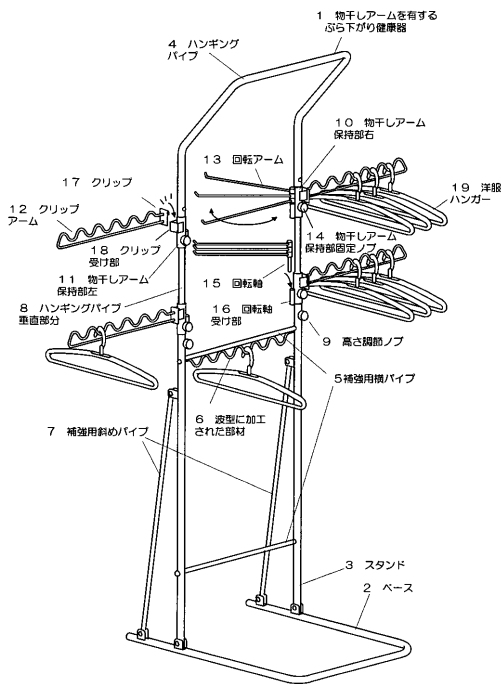
30

40

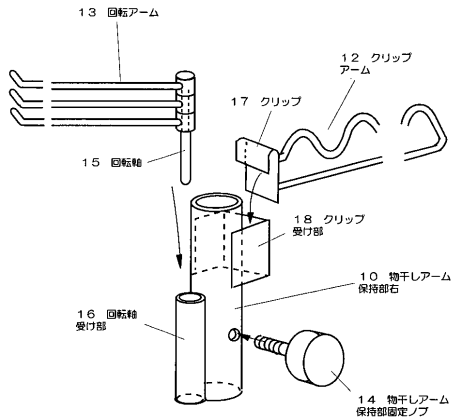
50

- 7 補強用斜めパイプ
- 8 ハンギングパイプ垂直部分
- 9 高さ調節用ノブ
- 10 物干しアーム保持部右
- 11 物干しアーム保持部左
- 12 クリップアーム
- 13 回転アーム
- 14 物干しアーム保持部固定ノブ
- 15 回転軸
- 16 回転軸受け部
- 17 クリップ
- 18 クリップ受け部
- 19 洋服ハンガー
- 20 波型部分
- 21 直線部分
- 22 カラー
- 23 直線アーム
- 24 ぶら下がり運動をする人

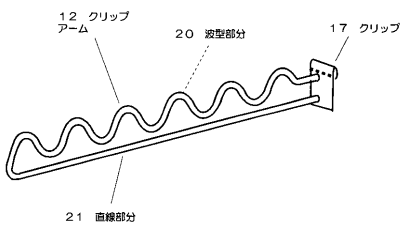
【 図 1 】



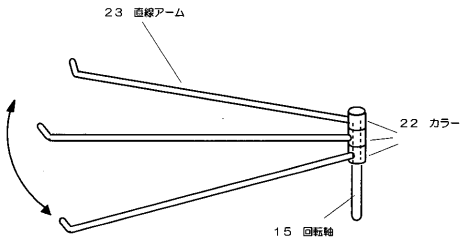
【 図 2 】



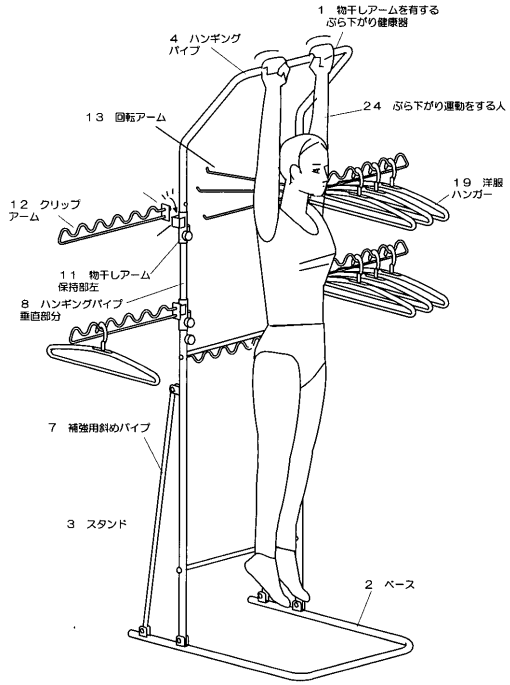
【 図 3 】



【 図 4 】



【 図 5 】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.

F I

テーマコード(参考)

A 6 3 B 23/12